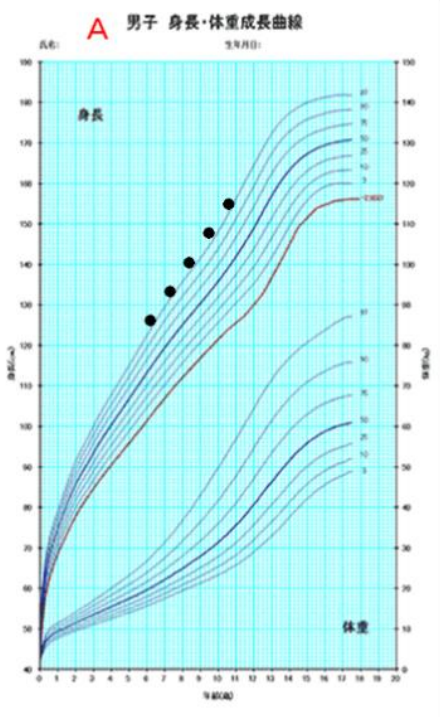
成長曲線と肥満度曲線に基づく児童生徒の健康管理の流れ

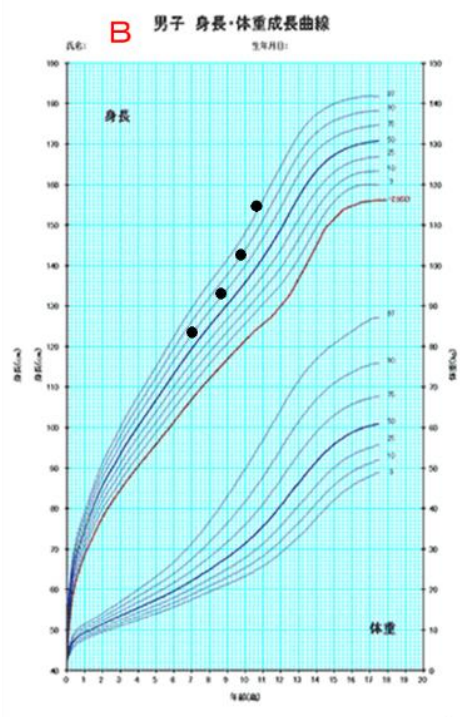
「子どもの健康管理」プログラムによる①～⑨群の一覧作成、身長・体重曲線と肥満度曲線グラフ作成、健康管理データの作成。自動検索された①～⑨群について、事後措置対応について、記載しますので、ご活用下さい。

①群：身長の最新値が 97 パーセンタイル以上（統計学的高身長）

A：成長曲線に沿っていれば受診不要



B：②群（成長率増加）も認めるときは**精査医療機関受診**

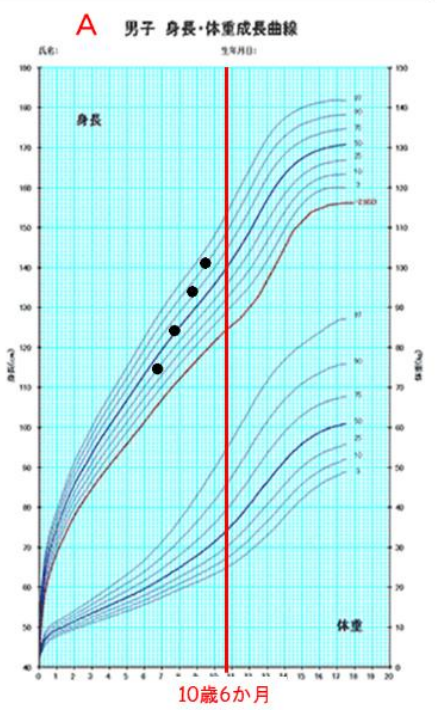


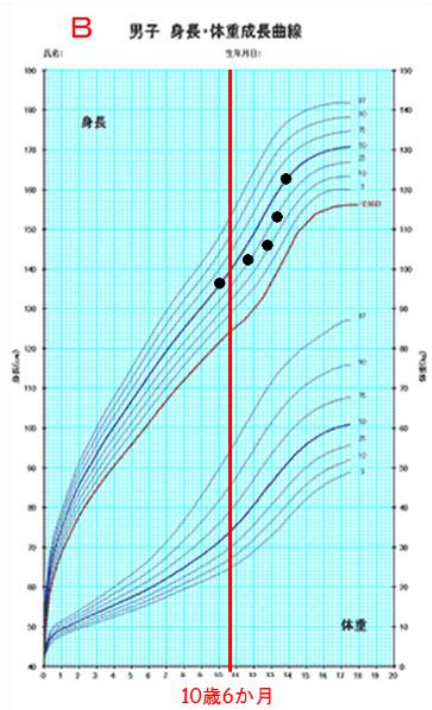
②群：過去の身長Ｚスコアの最小値に比べて最新値が１Ｚスコア以上大きい（身長の伸びが異常に大きい）

A：女子で 9 歳未満、男子で 10 歳 6 か月未満であれば**精査医療機関受診**

B：上記以降であれば経過観察

※女子 9 歳、男子 10 歳 6 か月：平均的思春期開始年齢マイナス 1 歳





③群：身長の最新値が３パーセンタイル以下である（統計学的低身長）

⑤群：身長の最新値が-2.5Ｚスコア以下である（極端な低身長）

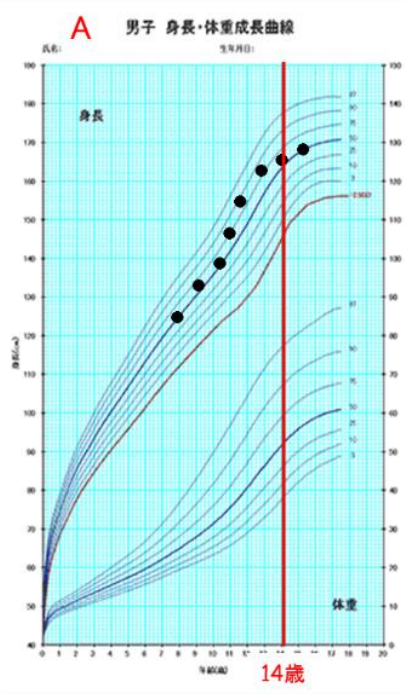
精査医療機関受診

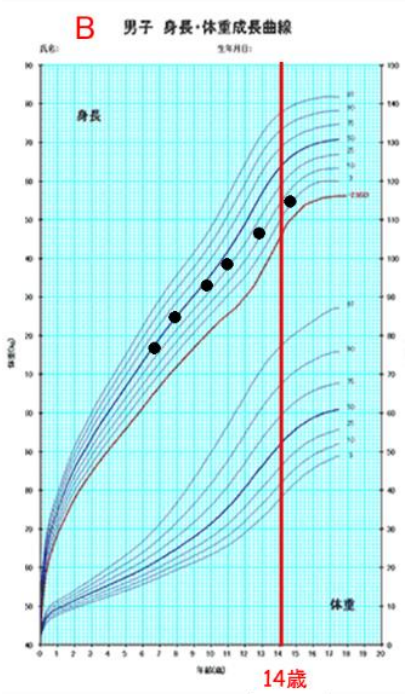
④群：過去の身長Ｚスコアの最大値に比べて最新値が１Ｚスコア以上小さい（身長の伸びが異常に小さい）

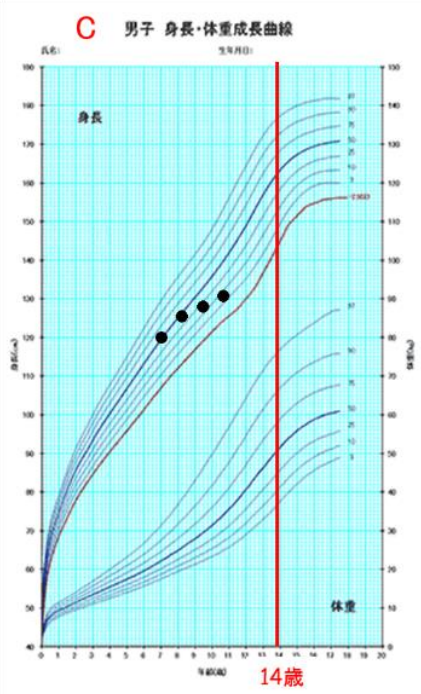
A：成長率が低下しているがその前にスパートが見られる。男児で声変り・女児で月経がきていれば正常

B：これまで平均であったのがグラフから外れてきている。身長の伸びは落ちていないので思春期が始まっていない可能性が高く経過観察。ただし男子で 14 歳、女子で 13 歳以降でも伸びが変わらなければ思春期遅発の可能性があるので**精査医療機関受診**

C：成長率が落ちているので**精査医療機関受診**







⑥群（肥満）
肥満度の最新値が 20%以上である

→ 軽度肥満の肥満度 20-29%は注意喚起
30%以上の中等度・高度肥満は**かかりつけ医受診**

⑦群（進行性肥満）
過去の肥満度最小値に比べて肥満度の最新値が 20%以上大きい

→ **かかりつけ医受診**

⑧群（やせ）
肥満度の最新値が-20%以下である

→ **かかりつけ医受診**

⑨群（進行性やせ）
過去の肥満度の最大値に比べて肥満度の最新値が 20%以上小さい

→ **かかりつけ医受診診**

※⑥～⑨群に該当し、①～⑤群にも該当する場合は、精査医療機関を受診

鹿児島県医師会成長曲線小委員会作成　2024/1 改定